

そよそになるてふ

三〇四

さい院

「辨」

622 湊みなからそてそぬれぬる海人小舟

のりをくれた

三〇〇

るわか身とおもへは

623 ゆく舟のたちもとまらぬこのしたに

いかなるあま

かなかめかるらん

三二二

一校訖

古今和歌六帖 第三

水

みつとり

をし

かも

みをつくし かた

みなと

とまり

にを

う

かめ

いを

こい

ふな

すゝき

たい

あゆ

ひを

かは

かはつ

はし

ひ

あせき

しからみ

夜かは

あしろ

やな

え

いけ

ぬま

うき

たき

にはたつみ

うたかた

さは

ふち

せ

うみ

あま

たくなは

しほ

しほかま

ふね

つり

いかり

あみ

なのりそ

も

みるめ

われから

うら

かひ

なきさ

しま

はま

ちとり

はまゆふ

さき

いそ

なみ

水

1 あしひきの山下とよみ行水の ときそともなくおも
ほゆるかな 三三三

源よしのあそん

2 足引のやましたみつのかくれて たきつ心をせき
そかねつる 三三三

3 あしひきの山下みつのしたくゝり 行はとしらぬこ
ひもするかな 三三四

4 ことならはやました水となりなゝん 人めしけきの
なかもゆくへく 三三五

5 しのみれとくるしき物をあしひきの やましたみつ
のつねになかれて 三三六

6 夏の野のくさしたかくれ行水の たえぬ心ある我と
しらすや 三三七

7 おもふとはなにをかさらにいはし水 こゝろをくみ
て人はしらなん 三三八

伊勢

わかおもはななくに

三三六

みつとり

さかの女郎イ

16 水鳥のかものはいろのはるやまの おほかなくも
おもほゆるかも 三三七

17 もみちするあきはきにけり水鳥の あをはのやまの
色つくみれば 三三八

18 いもこふといねぬあさけに水とりの こゑよりは
行いもかつかひか 三三九

大女らうのこ

19 水とりのうかふこのいけのこのは落て うける心を
わかおもはななくに 三三九

たふふさ

20 水鳥のはかなきあとにとしをへて かよふはかりの
えにこそ有けれ 三三九

21 みつとりのおのかうかへるこゝろもて ふちをもせ
とやおもひなすらん 三三九

22 風ふけはよとをむつふる水とりの うきねをのみや
水・水鳥・をし 三三九

8 はることになかるゝかはをはなとみて おられぬ水

に袖やぬれなん

三三九

9 いはせ山谷の下水うちし水のひ 人もみぬ間になかれ
てそふる 三三九

10 ぬま水のなみにはたてゝそこふかみ くさかくれつ
ゝあふよしもかな 三三九

11 をとなしの山の下行さゝら水 あなかもわれも思て
ゝろあり 三三九

12 おく山のこのはかくれにゆく水の をと聞しより常
にわす。れす 三三九

つらゆき

13 松をのみときはとおもふはよとゝもに なるゝ水
もみとりなりけり 三三九

たふみね

14 きみかよにあふさか山のいはしみつ こかくれたり
と何おもひけん 三三九

15 つくはねのいはもとゝろにおつる水 たえん物とは
三三九

わかねわたらん

三三九

23 人ことのしけみはされはみつとりの かものうきね
のやすけくもなし 三三九

をし

24 はねのうへのしもうちほらふ人もなし しのひ
とりね今朝そかなしき 三三九

25 ふゆのよをねさめてきけはをしそ鳴 はらひもあえ
すしもやをくらん 三三九

26 いけにすむなをゝしとりの水をあさみ かくるとす
れとあらはれにけり 三三九

27 をしとりのかはへにひとりなくよしも みきはのな
へてさえまざるらん 三三九

28 きみか名もわか名もをしのひとつかひ おなしえに
こそすまゝほしけれ 三三九

29 しろたへのなみふみちらすをし鳥の はかなきあと
ゝ人やまちみん 三三九

よしもち

一一七

30 しもこほり心もとけぬ冬の池に よふけてそ鳴をし
のひとこゑ 三三二

つらゆき

31 うかふともしつむともなきみなそこに なをうしと
りのそこにとそ思ふ 三三三

つらゆき

32 すにぬれはいさこのいけにまかふとり てにとるは
かりなりけるかな 三三四

みつね

33 しらなみのうてともたすむれみつ 人にとほか
ちめめれたるとり 三三五

三三四

34 なれてこしおきのかちめはつけなくに 後の心をい
かてしりけん 三三六

三三五

35 冬のよのかものうはけにをくしもの さえて物思ふ
比にもある哉 三三七

三三六

36 音にたてよるはわふてふうきかもの わかみかく
れにとひもきなくん 三三八

三三七

はくるしかりけり

三三九

44 わきもこかこふるにやあらんおきにすむ かももの
きねのやすけくもなし 三四十

三三九

45 さいたまのおさきのいけにかもそはねきる おのか
おにふるをけるしものはらふ。とにあらし 三四一

三四十

に ほ

46 には鳥のしたやすからぬ思ひには あたりの水もこ
ほらさりけり 三四二

三四一

47 しものうへにとひかふかものは風には ひとりある
ひとのいもねかねつる 三四三

三四二

48 にはとりのおき中かはたえぬとも 君にかたらふ
ことつきめやは 三四四

三四三

49 鴟とりのおなしうきねをするときは よふかきこゑ
をとものにこそきけ 三四五

三四四

50 君かなもわか名もたてしいけにすむ 鴟といふ鳥の
したにかよはん 三五六

三四五

をし・鴨・鳩・鶴・亀

37 なにはめのみつうきかよあしかもの したにかよ
ひてあはれと思ふ 三四六

三四五

38 あしかものさはく入えのしらなみの しらすや人を
かくこひんとは 三四七

三四六

39 芦へ行かものはをとのをとののみ きつゝ人をみ
てややみなん 三四八

三四七

ゆはらのおほきみ

40 よしのなるなつみのかはのかはよとに かもそ鳴な
る山かけにして 三四九

三四八

大とものさかのうへのらう女

41 よそにつこひつゝあはすは君かいぬの いけにす
むてふかもならましを 三五〇

三四九

つらゆき

42 いのりくるかもとおもふをあやなくも かもめさへ
たくなみてみゆらん 三五二

五〇

43 しきたへのまぐらにたにも我をなせ かもものうきね

三五三

51 あふことのなきさによする鴟鳥の うきにしつみて
物をこそおもへ 三五五

三五四

さかのうへのらう女

52 にはとりのすたくいけみつ心あらは きみにわかこ
ひこゝろしめさね 三五七

三五六

53 はるのいけのたまもにあそふ鴟鳥の あしのいとな
き恋もするかな 三五八

三五七

54 ひとりのみみつのほりえにすむ鴟の そこはたえす
もこひわたる哉 三五九

三五八

う

やかもち

55 年ことにあゆしはしれはさはた川 うやつかつて
川瀬たつねん 三六〇

三五九

56 しら川のせをたつねつゝわかせこは うかはたせ
めこゝろなくさに 三六一

三六〇

57 うかはたちとりさむあゆのしたはたえ 我にかき
りにおもひしおもへは 三六二

三六一

か め

58 ふるかはのそこのこひちにありときく かめのこふ
ともしらせてしかな 三三九

59 大井川ぬせきにふせるかめの山の 命のかきりあひ
みてしかな 三三九

つらゆきイ

60 波まより出くるかめはよるつよと 我おもふことの
しるへなりけり 三三七

い は

61 わたつみのかみのしまけるいをゆへに こきなつか
れそあまの釣舟 三三七

62 いせのうみに釣するあまのいをなみ うけもひか
れぬ恋もする哉 三三七

こ い

63 行水のしたなるこいのくるしきは あみの人目をつ
む成けり 三三四

64 よと川のそこのすまねとこひといへは すへていを
こそねうれさりけり 三三四

やなほこりして

72 あたらよをいもとねなてとりかたき あゆとる
くといわの上にあて 三三三

ひ を

73 うち川のせゝにありてふあしろきに おほくのひを
もわひさする哉 三三四

74 なかれくるもみちの色のあかけれは あしろにひを
のよるもみえけり 三三五

75 すくしくる目をかそふれはうちかわの あしろなら
ねはよらしと思ふ 三三六

か は

76 みよし野のおほかは水のゆをひかに あふとはなし
へなみのたつらん 三三七

77 川のせになひくを見ればたまもかも ちりみたれた
る川のつねかも 三三八

78 みかくれていきつきあまりはやかはの せにはたつ
とも人にいはめや 三三九

亀・いは・鯉・鮒・鱈・鯛・鮎・氷魚・川

ふ な

たかやすの大君

65 おきへゆきへにゆきいまいもかため わかすなと
れるもふしつくふな 三三六

66 人しれす水の下にはかよへとも あふなはとらしと
おもひし物を 三三七

すゝき

67 すゝきつるふけるのうらのあまにもか 今なきゆき
ていへつしまみん 三三六

68 すゝきつるあまのたくひのよそにたに みぬ人ゆへ
にこふるこのころ 三三七

69 あらいそのふちえのうらにすゝきつる あまとかみ
らんだひ行我を 三三六

た ひ

70 あふことをあときしにまにひくたひの たひかさな
らは人もしりなん 三三六

あ ゆ

71 君ませは物もおもはすたまかはの せにふすあゆの

79 むかしみしきさのをかはを今朝みれば いやゝき
よく成にけるかな 三三六

たゝみね

80 にこりなきゝよたき川のきしなれば そこよりさく
とみゆるふちなみ 三三六

81 たえす行あすかの川のゆらざらば ゆへもあらしと
人のみらくに 人のみらくに 三三六

82 をちへ行こちかせ川にたれしかも いろさやかたき
みとりそめけん 三三六

83 照月のかつらの川しきよければ うゑした秋のちみ
ちをそみる 三三六

84 つのくにのいくたの川のいくたひか 君をこひしと
我おもふらん 三三六

85 今さらにさらしな川のなかれても うきかけ見せん
物ならなくに 三三六

86 からころもたつたの川のこときけは 今なきぬとも
つ 三三六

一一一

おもはゆるかな

三三六

87 朝ことにくみみの川のみをたえす こひしき人にあ

ひみてしかな

三三六

88 いもか門いて人の川のせをはやみ 我むまつつく

いちこふるかな

三三九

89 とねかはうそこはにこりてうはすみて ありける物

をさねてくやしく

三四〇

90 むく川の身をすみはやすあかこまの あしかきそゝ

きぬれにけるかな

三四一

91 ふしかわのよにすむへくもおもはえす こひしき人

のかけもみえねは

三四三

92 たま川はまさらはまされまこまのゝ こまのゝとの

ゝふねならなくに

三四三

93 よと川のとむと人はみるらめと なかれてふかき

こゝろある物を

三四四

94 ほり川のせきのあくひのうちわたし あはても人に

こひあるかな

三四五

95 あさことにきけははるけいつみ川 あさくききつ

うたふふな人

三四六

96 みたれつゝ人たによらぬいと川 なみのさはくは

みつをよるとか

三四七

97 我袖を今もかはかくゆふ川か またかへりこんよろ

つよまでに

三四八

98 つくはねのみねよりおつるみな川 こひそつもり

てふちと成ける

三四九

99 つねよりもはるきにければさくら川 なみのはなこ

そまなくよすらめ

三四〇

100 君こふと人しれねはやきのくにの おとなし川のを

とにたにもせぬ

三四二

101 人しれすぬれにし袖のかはかぬは あふくま川の水

にやあるらん

三四三

102 身にちかきなをそたのみしみちのくの ころもの川

ゝわたるかな

三四四

111 ミマホシミコシラシ、ルクヨシノ川 ヲトノサヤケサミル

ニトモシク イ

三四五

112 ヲハステノ月ヲシメテシミ、ト川 ツコヲノミコソシノヒ

ワタラメ(以上一頁、底本・校合不とも、片仮名書き和字補入) 三四三

113 をとにのみきかまし物ををとし川 わたるとなしに

みなれそめけん

三四四

114 かりにてもわかるとおもへはかみなかは せゝの千

鳥のみたれてそなく

三四五

115 こゝろにもあつてわかれしあひつかは うき名を水

になかしつるかな

三四六

116 めなし川みゝなしやまのみゝきかす ありせは人を

うらみさらまし

三四七

117 ふちせともなにかたのまんいもせ川 こゝろはせに

しよらんとおもへは

三四八

とみてやわたらん

三四三

103 いにしへのかしこきひとのあそひけん よしのゝ川

はみれとあかぬかも

三四四

104 君こすはたれにみせまししら川の せゝにうつまく

たきのしらたま

三四五

105 みちのくにありといふなるたま川の 玉さかにても

あひみてしかな

三四六

106 千とり鳴るなのかはらをみるときは やまとことゝ

もおもはゆるかな

三四七

107 つくしなるおほかた川の大方は 我ひとりのみわた

るうきせか

三四八

108 ゆふたすきかけても人をたのまねと なみたはかも

の川にこそたて

三四九

109 みよし野のあきつの川のよろつ世に たゆるときな

くまたかへりみん

三四〇

110 もゝしきの火宮ちかきみゝと川 なかれてきみをき

川

三四一

- 118 後の中はなそやまこなるみなれ川 みなれそめすそ 二四六
あるへかりける
119 いのりつたのみそわたるはつせ川 うれしきせに 二四七
もなかれあふやと
120 よの中をいとなくけきそあすかは あすかの川は 二四八
ふちせなりけり
121 みかのはらわきてなかるゝいつみかは いつみきと 二四九
てか人こひしかるらん
122 たひ人のまきなかつといふにふかわの ことはかよ 二五〇
へとふねそかよはぬ
123 はりまかたうみにいてたるしかま川 たえん日にこ 二五一
そわかこひやまめ
124 みつ川のふちせもしらすさはさして かりのころも 二五二
てはす人 なれにイ
125 いもせ川なひくたまものみかくれて われはこふと 二五三
も人はしらしな
126 すゝか川をとにきゝてやよをはへん としふること 二五四

- になるゝよもなく
127 いなは川いなしつるにいひはては なかれてよに 二五五
もすましと思ふ
128 タマ川ハマサレハマサレマコマノ、 コマノ、殿ノフネ 二五六
ナラナクニ イ（此一首、底本・校合本とも片仮名書き細字補入）
129 わすれ川よくみちなしときゝてこそ いとふのかみ 二五七
もちはよりけれ
130 ひろせ川袖つくはかりあさきをや 心ふかめて我は 二五八
おもはん
131 おもふともをとなし川のをとなせそ したには水の 二五九
たえぬものから
132 つくり川たゆることなくおもふにも ひとひもきみ 二六〇
をいみそかねつる
133 なかれてもたえしと思ふおもひ川 いつれかふか 二六一
き心成ける
134 「トシフレトソヒツカハノウツマキニ コヒシキ人ノカ 二六二

ケナカリケリ イ（此一首、細字補入）

- 134 あはれとはおもひわたれともかみ川 ふちをもせを 二六三
もえこそさためね
135 大井川おろすいかたのいかなれは なかれてつねに 二六四
こひしかるらん
136 いはたきにいそさへとよむうふ川の あかたうたれ 二六五
て我おもはなくに
137 うつゝにはさらにいはずはりまなる ゆめさき川 二六六
のなかれてもあはん
138 いはた川いそさへさくゆちはの したはくつれ 二六七
ておもふころかな
139 ゆふたすきかけても人をたのまねは なみたはかも 二六八
の川にこそたて
140 秋かせの吹たつた川もみちはの にしきをみつゝい 二六九
かゝわたらん
141 よなつかはふむせさためぬよときは 我もふかく 二七〇
たのまるゝかな
川・姓

- 142 ねふれとそ袖ひつかはのうへきまに こひしき人の 二七一
かけなかりけり
143 くらら川かはせをはやみあかこまの あしのそゝき 二七二
にぬれにける哉
かはす
144 みよし野ゝいはもとさらずなくかはつ むへもなく 二七三
らん川のせきよみ
145 小山田のふかたのかはつ何ゆへに こひちにぬれて 二七四
鳴ならなくに
146 我やとのあひやとりしてすむかはつ よるになれは 二七五
や物はかなしき
147 やまふきのはなかけみゆるさは水に 今そかはつの 二七六
こゑきこゆなる
148 せをはやみをきたちつらししうなみに かはつ鳴也 二七七
朝夕ことに
149 草枕たひに物おもふ我きくに ゆふかたかけてなく 二七八
かはつかも

150 たま川のひとそちよきす明かはつ このゆふかけは

おしやあらぬ

二四九

151 秋風にかはつまよふふさはは ころもてさむし

まらせんとか

二五〇

152 さはなにかはつ鳴なりやまふきの うつろふかけや

そこみゆらん

二五一

153 をとはかりおつるしら川しらねとも かはつかこゑ

をとめてきにけり

二五二

154 ゆふさしてかはつなくなるみわ川の きよきせのを

とをきしはよし

二五三

は し

155 かつらきのわたるくめちのつきはしの こゝろもし

うすいさかへりなん

二五四

156 いそのかみふるのたかはしたかくに いもかまつ

うんよそふけにける

二五五

164 さしなからののはしらつゆにぬれにけり あきてふこ

とをくれなるにして

二五七

已上二首貫之

165 せのやまにたゝにむかへるいもせ山 こときこゆや

もうちはしわたす

二五八

166 まのゝうらのよとのつきはし心にも おもふかいも

かゆめにみえつゝ

二五九

167 をはたゝのいたゝのはしのこほれなは けたよりゆ

かんこふなわきもこ

二六〇

168 ふるゝ身はなみたの川にみゆればや なからののはし

にあやまたるらん

二六一

ひ

169 さは川にこほりわたれるうすらひの うすき心をわ

かおもはなくに

二六二

170 水うのかものすむいけのしたひなく いふかしきい

姓・橘・ひ・あせき・しからみ

157 へさはかはにこほりわたれる鶯の うすき心を我お

もはなくに

二六三

158 こひしくははまなのはしをいてゝみよ した行水に

影やみゆると

二六四

159 うのくにのなにはのうらをひとしききみをおも

へはあからめもせず

二六五

伊勢イ

160 なか空にきみもなりなんかさゝきの ゆきあひのは

しにあらめなせそ

二六六

161 人わたすことたになきをなにかも なからののはし

と身のなりぬらん

二六七

162 なにはなるなからののはしもつくるなり 今是我身を

何にたとへん

二六八

已上二首伊勢

163 しらくものたなひきわたるあしひきの やまのたな

はし我もわたらん

二六九

もをけふみづるかな

二七〇

あせき

171 大の川井せきにこえて行水の たえすも物をおもふ

ころかな

二七一

172 大井川せきのふるくひとしふとも 我わすられんと

やはおもひし

二七二

173 たひとあらは後のなくさめあるへきを なみたのる

せき水やこえなん

二七三

174 おほる川井せきのるくひうちわたし こひしとのみ

やおもひわたらん

二七四

175 るせきにもさはらさりけりもみちは おちくる水

の色にみえつゝ

二七五

176 あさことに井てこすなみのたやすくも あはぬいも

ゆへたきもとゝろに

二七六

しからみ

177 わきもこにわかこふらくはみつならは しからみこ

えていぬへくおもほゆ

二七七

178 たまなる木にてのしからみうすきかも こひのよと

める数こころかも

179 あすからはせうにたまちはおはかれと しからみあ

ればなふきてそあはす

買之

180 河川そのみなかはやければ せきそかねつる袖

のしからみ

181 秋はきのはなのなかる川せには しからみかくる

しかの音もせず

182 大井川心しからみかみしもぞ ちとりしは鳴夜そふ

けにける

183 人しれぬなはしからみかけたれば こひしきせに

ちあふよしのなき

春みちのつらきイ

184 やま川に風のかけたるしからみは なかれもあへぬ

ちみち成けり

い勢

185 水もせにうきぬるときはのしからみは うちのこのと

もみえずそ有ける

たいふね

186 せをせけはふちとなりてちよこみけり わかれそと

むろしからみこなき

よかは

つらゆき

187 かかり火の影となる身のわひしきは なかれてした

にもゆるなりけり

なりひら

188 大る川うかふう舟のかかりひに せくらの山の名の

み成けり

つらゆき

189 大空にあらぬ物から川上に ほしかと見ゆるかかり

のひのかけ

190 かかり火にあらぬ物からなそちかく 涙の川にうき

てみゆらん

191 かかりひの影しう「れはむはたまの よかはの水は

そこち見えけり

192 かつら川よるかひのほるかかりひの かかりけりと

もいまこそはしれ

あしろ

人丸

193 ものふのやそうち川のあしろ木に いさよふなみ

のよるへしらすも

みつね

194 川上にしくれのみふるあしろ木に もみち葉さへそ

おちまさりける

つらゆきイ

195 清つもるもみちは見ればもこせの あさのとなり

はあしろ成けり

つらゆき

196 もみちはのなかれてとまるあしろには しらなみも

またよらぬ目そなき

しからみ・よかは・瀬代・やな・江

あめりかすのたまへ、えはこふねの、そとにはた
てすむふるなは

あめりかすのたまへ、えはこふねの、そとにはた
てすむふるなは

あめりかすのたまへ、えはこふねの、そとにはた
てすむふるなは

あめりかすのたまへ、えはこふねの、そとにはた
てすむふるなは

あめりかすのたまへ、えはこふねの、そとにはた
てすむふるなは

あめりかすのたまへ、えはこふねの、そとにはた
てすむふるなは

あめりかすのたまへ、えはこふねの、そとにはた
てすむふるなは

世勢イ

211 すみのえのめにかかうはきしにあて なみのかす

をちよむへきものを

212 アキカセノチエノウラホノコトツミナル コ、ロハヨリス

ノチハシラネト イ

い

213 我せとかおゆるかをしさうたのいけの たまらにも

かなかりあけはやさん

つらゆき

214 あめふるとふくまつ風はきこゆれと いけのみきは

まさらさりけり

215 さるさわのいけもつらしなわきもこか たまもかつ

かはみつもひなまし

216 こひをのみますたの池ぬうきぬなは くるにぞもの

ゝみたれとはなる

217 あたなりて人めつゝみにせかれにし 池のみつとも

ゆかぬこゝろか

218 あたなりとなにはいはいれの池なれば 人にねぬなは

たにきりける

219 おもへとも人めをつゝむねこそ あさつのいけとな

りぬへらなれ

220 かつまたの池にすむてふこひく まれにもよそ

にみゆそかなしき

221 はらのいけに生るたまものかりそめに きみを我お

もふ物ならなくに

222 あふことはならしの池の水なれや たえみたえすは

としのへぬらん

223 には鳥のさはかすかたのいけ見れば みなとゝのみ

そたつへかりける

224 水鳥のうきて心のまふかな みやちのいけにとし

はへぬれと

225 何事もいはてこしたの池にたつ かくいひしらぬ物

はおもはず

世・世・世

226 おなしくはきみとならひのいけにこそ 身をなけつ

とも人にかたため

227 あしかものすたく池水まさるとも ゐせきのかたに

我こやめやは

あか人

228 いにしへのふるきつゝみはとしふかみ 池のなきさ

にみくさおひにけり

229 おくやまのいはかきぬまのみこもりに こひやわた

らんあふよしをなみ

230 みくさ生てありともみえぬゝま水に したのこゝろ

をしる人そなき

231 くれなるのいろにはいてしかくれぬの したにかと

ひてこひはしぬとも

232 いつとてか我こひさらんみちのくの あさかのぬま

はけふりたゆとも

233 かくれなくあはすなりなはみちのくの いかほのぬ

234 かくれぬのした行水のおもはえは いかにせよとか

三六

235 かくれぬのしたにこふれはあきたらす 人にかたり

三六

236 いむてふものを さしねはふうきはうへこそつれなけれ

三六

237 何こともいはれさりけり身のうきは おひたるあし

三六

238 あしのねのよはき心はうきことに まつをれふして

三六

239 はるくればたきのしらうといかなれや むすへとも

三六

240 なをあらはに見ゆらん ぬげとみた

三六

241 さらけはかへらし流みつゝ よへときかすとき

三六

242 さらけはかへらし流みつゝ よへときかすとき

三六

243 さらけはかへらし流みつゝ よへときかすとき

三六

244 さらけはかへらし流みつゝ よへときかすとき

三六

245 さらけはかへらし流みつゝ よへときかすとき

三六

246 さらけはかへらし流みつゝ よへときかすとき

三六

247 さらけはかへらし流みつゝ よへときかすとき

三六

248 さらけはかへらし流みつゝ よへときかすとき

三六

249 さらけはかへらし流みつゝ よへときかすとき

三六

250 さらけはかへらし流みつゝ よへときかすとき

三六

251 さらけはかへらし流みつゝ よへときかすとき

三六

252 さらけはかへらし流みつゝ よへときかすとき

三六

241 いとさへみえてなかるゝ流なれば たゆへくもあ

三六

242 おもふことたきにもあらなんなかれても つきせぬ

三六

243 山高みこす糸を分てなかくる 流にたくへておつ

三六

244 はるたちて風やふきとくけふみれば たきのみをよ

三六

245 しらくもやみたるゝとのみみえつるは おちくるた

三六

246 山わけて落くる流をしらくもの たなひくとのみお

三六

247 もゝくさのはなのかけまてうつしつゝ をともかは

三六

248 もゝくさのはなのかけまてうつしつゝ をともかは

三六

249 もゝくさのはなのかけまてうつしつゝ をともかは

三六

250 もゝくさのはなのかけまてうつしつゝ をともかは

三六

251 もゝくさのはなのかけまてうつしつゝ をともかは

三六

252 もゝくさのはなのかけまてうつしつゝ をともかは

三六

253 もゝくさのはなのかけまてうつしつゝ をともかは

三六

254 もゝくさのはなのかけまてうつしつゝ をともかは

三六

255 もゝくさのはなのかけまてうつしつゝ をともかは

三六

256 もゝくさのはなのかけまてうつしつゝ をともかは

三六

257 もゝくさのはなのかけまてうつしつゝ をともかは

三六

258 もゝくさのはなのかけまてうつしつゝ をともかは

三六

259 もゝくさのはなのかけまてうつしつゝ をともかは

三六

260 あしひきの山路しらねとまとはれす をとほの流の

三六

261 白川のたきのしらいと見まほしき よるをそ人はま

三六

262 しら川のたきのいと見まほしけれと みたりて人は

三六

263 しら川のたきのいと見まほしけれと みたりて人は

三六

264 しら川のたきのいと見まほしけれと みたりて人は

三六

265 しら川のたきのいと見まほしけれと みたりて人は

三六

266 しら川のたきのいと見まほしけれと みたりて人は

三六

267 しら川のたきのいと見まほしけれと みたりて人は

三六

268 しら川のたきのいと見まほしけれと みたりて人は

三六

269 しら川のたきのいと見まほしけれと みたりて人は

三六

270 しら川のたきのいと見まほしけれと みたりて人は

三六

271 しら川のたきのいと見まほしけれと みたりて人は

三六

272 しら川のたきのいと見まほしけれと みたりて人は

三六

273 しら川のたきのいと見まほしけれと みたりて人は

三六

274 しら川のたきのいと見まほしけれと みたりて人は

三六

275 しら川のたきのいと見まほしけれと みたりて人は

三六

276 しら川のたきのいと見まほしけれと みたりて人は

三六

277 しら川のたきのいと見まほしけれと みたりて人は

三六

278 しら川のたきのいと見まほしけれと みたりて人は

三六

よせし物々や

264 二のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

265 三のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

266 四のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

267 五のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

268 六のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

269 七のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

270 八のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

271 九のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

272 十のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

273 十一のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

274 十二のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

275 十三のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

276 十四のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

277 十五のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

278 十六のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

279 十七のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

280 十八のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

281 十九のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

282 二十のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

283 二十一のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

284 二十二のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

285 二十三のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

286 二十四のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

287 二十五のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

288 二十六のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

289 二十七のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

290 二十八のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

291 二十九のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

292 三十のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

293 三十一のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

294 三十二のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

295 三十三のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

296 三十四のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

297 三十五のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

298 三十六のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

299 三十七のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

300 三十八のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

301 三十九のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

302 四十のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

303 四十一のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

304 四十二のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

305 四十三のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

306 四十四のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

くわかれぬる身を

269 にはたつみななるゝかたのなければや 物おもふ人

270 にはたつみこのしたかくれなけれは うきかたは

271 にはたつみありと見ましや

272 にはたつみきそ人のしるへく

273 にはたつみうたかた

274 にはたつみうきことによにふる物をたきつせに

275 にはたつみたたえん物かは

276 にはたつみうたかたのむまやは人のおちひつく

277 にはたつみくそめてし物を

278 にはたつみうたかたのおもへはかなし世の中を

279 にはたつみしらせそめけん

280 にはたつみふりやめはあとたに見えぬうたかたの

281 にはたつみなきよをたのむ哉

282 にはたつみちはやふる神もしるらんよと川の

283 にはたつみかきこゝろは

284 にはたつみやまたかみみつといはめやたまきはる

285 にはたつみのかくれたるつま

286 にはたつみかみなひをうちまふさきのいは淵の

287 にはたつみや我こひをせん

288 にはたつみ水まさるときはふちなるやま川の

289 にはたつみをとのたえせぬ

290 にはたつみせ

291 にはたつみちもみちはのなるゝ川のしらなみの

292 にはたつみそ成ぬへらなれ

293 にはたつみ川のせのみなきるあはのなかれても

294 にはたつみきえてうらみん

295 にはたつみ千鳥鳴さほの川せのせをひろみ

296 にはたつみつかかよはん

297 にはたつみ清原のふかやふ

298 にはたつみ

299 にはたつみ

300 にはたつみ

301 にはたつみ

302 にはたつみ

303 にはたつみ

304 にはたつみ

305 にはたつみ

306 にはたつみ

307 にはたつみ

308 にはたつみ

309 にはたつみ

310 にはたつみ

311 にはたつみ

312 にはたつみ

よせし物々や

264 二のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

265 三のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

266 四のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

267 五のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

268 六のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

269 七のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

270 八のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

271 九のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

272 十のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

273 十一のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

274 十二のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

275 十三のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

276 十四のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

277 十五のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

278 十六のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

279 十七のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

280 十八のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

281 十九のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

282 二十のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

283 二十一のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

284 二十二のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

285 二十三のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

286 二十四のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

287 二十五のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

288 二十六のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

289 二十七のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

290 二十八のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

291 二十九のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

292 三十のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

293 三十一のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

294 三十二のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

295 三十三のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

296 三十四のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

297 三十五のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

298 三十六のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

299 三十七のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

300 三十八のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

301 三十九のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

302 四十のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

303 四十一のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

304 四十二のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

305 四十三のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

306 四十四のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

307 四十五のまふりつみにけえめよし野の やまのかみ

290 この川はわたる世もなし紅葉の なかれてふかき
色をみすれば 三六九

おはともものやすみ

291 ひとつせになみさへさはり行水の 後もあひみん今
ならずとも 三六九

292 秋かせにやまふきのせのひくさへ 空なる雲のさ
はきあへるかも 三六九

293 はつせ川いくせかわたるわきもこか おきてしくれ
はやせこそわたれ 三六九

294 名とりかはいくせかわたるなくせとも やせともし
らすよるしわたれは 三六九

295 あすかすせのうきあはになかれても やすき
をぬる我とやはしる 三六九

296 おもはしみあはぬきみゆへいたつらに この川のせ
にたまぬらしつ 三六九

う み

297 いせのうみの波間にくだすつりのをの うちはへひ

しらすやあるらん

已上二首つらゆき

三六三

305 いせのうみのちひろのそこもかきりあれば ふかき
心を何にたとへん 三六三

心は何にたとへん

306 ワタノソコオキヲフカメテワカヲモフ キミハアハントシ
ハフストモ 三六三

ハフストモ 三六三

307 なかれ行みをしおもへは大かたの うみをみるにも
うらみたえす 三六三

うらみたえす

308 ちの川なかれてつとふわたつうみの みなそこふ
かくおもふころかな 三六三

かくおもふころかな

309 すまのうらにしはやくほのをゆふされは ゆきすき
かてにやまにたなひく 三六三

かてにやまにたなひく

310 おはうみにしまあらくにうなはらの たゆたふ
なみにたてるしらくも 三六三

なみにたてるしらくも

つらゆき

311 うらことにさきちるなみのはなみれば うみにはは

類・海・あま

とりこひわたるかな

三六五

298 をしなへてよはみなうみとなりなうん おなしなき
さになみやよすらん 三六五

これのり

299 わたのそこかつきてしらん人しれす おもふ心のふ
かさくらへに 三六五

かさくらへに

300 かつき出ぬなみたかいそのあはひゆへ うみてふう
みはかつつきつくしつ 三六五

みはかつつきつくしつ

301 君こふるなみたのそこにうみはあれと ひとをみる
めはおひすそ有ける 三六五

めはおひすそ有ける

いせ

302 うみとのみまとひのなかはなりなうん そなからあ
はぬかけのみゆれば 三六五

はぬかけのみゆれば

303 さをさせとそこもしらぬわたつうみの ふかき心
をきみはしらなん 三六五

をきみはしらなん

304 おもひやる心はうみにわたれとも ふみしなけられは

るもくれぬなりけり

三六六

312 わたつうみのをきのひろせになかれても ひとのよ
るせもありてふ物を 三六六

るせもありてふ物を

313 なこのうみのあさけのなこりいまもかも いそのう
らあはにみたれてあらん 三六六

らあはにみたれてあらん

あ ま

314 あひきするあまおとめこか袖とほり ぬれにどころ
もはせとかはかす 三六六

もはせとかはかす

315 あひきするあまとやみらんあきのうらの きよきあ
らいそをみにこし我を 三六六

らいそをみにこし我を

316 わたつうみのつらき心やふかくらん あまてふあま
のうらみつふる 三六六

のうらみつふる

317 伊勢のうみのあまのしわざのあこやたま とりての
うちもこひのしけらん 三六六

うちもこひのしけらん

318 うらことにあさりするあまのもとめても こひしき
人にあはんとそ思ふ 三六六

人にあはんとそ思ふ

319 あまをとめいきりするひのをほくして みてし人し

あまをとめいきりするひのをほくして

一三七

320 あさなく／＼あまのきはさすうらふかみ をよはぬこ
ひもわれはするかな 伊勢 三六三

321 心してたまはかれと袖ごとに ひかりみえぬはあ
まにさりける 三六八

なかのいきまる

322 おほみやのうちまてきこゆあひきすと かことゝの
へるあまのよひこゑ 三六九

323 しはかまのうらこきつらん舟のをとは きしかこと
くにきくはかなしな 三六九

324 なにはかたおふるたまをかりそめの あまとそ我
は成ぬへらなる 三六九

325 中／＼にきみにこひすはひこのうらの あまゝなら
ましをたまもかりつゝ 三六九

なくなは

326 なくなはのなききおのおしけくば たえても人をみ

まほしみ思

327 いせのうみのあまのたくなはくりしあへは 人にゆ
つらんと我おもはなくて 三六三

328 伊勢のうみの千ひろたくなはくりかへし みてこそ
やまめ人の心を 三六四

しほ

329 なはのうらにしはやくほのは夕されは ゆきすきか
てにやまにたなひく 三六五

やまくちの女わう

330 あしまよりみちくるしほのいやましに おもひはま
せとあはぬ君かな 三六六

331 いせのあまのしはやくけふり風をいたみ おもはぬ
かたにたなひきにけり 三六七

332 うしまとのなみのしはさぬしまつゝき こひしき君
にあはすもあらん 三六八

333 すまのうらにたまもかりはすあまころも 袖みつし
はのひる時やなき 三六九

334 なにはかたしはひしほちつねなれは おもひおも
はすみえぬる物を 三六九

335 煙にもなれやしめらんとしふれは しはやくあまに
とひもしてしか 三六九

336 あらしはのうつし心も我はなし よるひる人をこひ
しわたれは 三六九

337 なにはかたあさなく／＼にみつしほの みちにこそみ
てかはくよもなし 三六九

338 あゆちかたしはひにけらしちかのうらに あさこく
舟のおきによるみゆ 三六九

339 わたつうみにおきつしはあひにうかふあはの たえ
ぬ物からよる方もなし 三六九

340 をしてるやなにはのうらに焼しほの からくもわれ
はおひにけるかな 三六九

ゆきひら

341 わくらにはにとふ人あらはすまのうらに もしはたれ
つゝわふとこたへよ 三六九

あま・博聞・しほ・忠盛

342 すまのうらにしはやくほのを夕されは 行すきかて
に山にたなひく 三六九

343 わたつうみのおきのしはせになかれても ひとのよ
るせはありてふ物を 三六九

しほかま

山くちの女らう

344 しはかまのまへにうきたるうきしまの うきておも
ひのあるよ成けり 三六九

345 わかおもふ心もしるくみちのくの ちかのしはかま
ちかつきにけり 三六九

いせ

346 あまふねのかよひこしよりしはかまの ほのをいた
ますおもひつきにき 三六九

347 ちかのくのちかのしはかまかなから はるけくの 花
みもおもはゆる哉 三六九

348 我せを都へやりてしはかまの まかきの鶴をまつ
はくるしも 三六九

349 みちのくはいつくはあれとしはかまの まかきのし
三六九

まのつなてかなしも

三六五

350 しはかまのうらこきつらん舟のをとは

三六六

とくきくはかなしな

三六七

ふ

三六八

351 おは舟のおもひたえにしきみゆけは

三六九

なたうにあふまで

三七〇

352 いてわれを人なとかめそおは舟の

三七〇

物思ふころを

三七〇

人まろある本

三七〇

353 みなきこひおきつこしまに風をいたみ

三七〇

ねつ心はおもへと

三七〇

354 むまやちにひきふねわたしたのりに

三七〇

のりてくるかも

三七〇

355 あまをふねはかのはなかとみるまでに

三七〇

はになみたてるみゆ

三七〇

なりひら

三七〇

356 なはつにけふこそみつのうらことに

三七〇

よをうみわたるふね

三七〇

たかふちのわうし

三七〇

きる本

三七〇

357 あしとてこき行舟はたかしまの

三七〇

つきにける哉

三七〇

358 てる月をくもななくしそしまかけに

三七〇

まりしらすも

三七〇

ひとまろ

三七〇

359 わたつうみのいつれの神をいははか

三七〇

さもふねのはやけん

三七〇

360 あちかまのしほつをさしてこく舟の

三七〇

をあはさらめやは

三七〇

つのまろ

三七〇

361 風をいたみおきつしらなみたからし

三七〇

舟こき帰るみゆ

三七〇

そとせこくてふ

三七〇

368 おは舟にはしはかりつみしみるにも

三七〇

りにけるかも

三七〇

369 世の中をなにたとへんあさはらけ

三七〇

とのしらなみ

三七〇

370 しらなみのうちこしこふるときにあは

三七〇

つめる舟もうきなん

三七〇

371 いそにたにおきつをみればちかり舟

三七〇

しかもかけるみゆ

三七〇

372 さしてゆくかたはみなとのなみたかみ

三七〇

るあまのつり舟

三七〇

ふかやふ

三七〇

373 しらなみにあきのこのはのうかへるを

三七〇

せる舟かと思ふ

三七〇

つらゆき

三七〇

374 おひかせのふきぬるときはこく舟の

三七〇

うれしかりけれ

三七〇

362 うけきよきおきへさし出るあま舟の

三七〇

く思ゆけるかな

三七〇

363 あふみのうみなみをそろし風はやみ

三七〇

むるさすとはなしに

三七〇

こまち

三七〇

364 心からうきたるふねにのりそめて

三七〇

ぬれぬ日そなき

三七〇

たかちのくろまろ

三七〇

365 よも山をうちこえくれはかさぬひの

三七〇

たなをしを舟

三七〇

人まろ

三七〇

366 はのくとかあしのうらのあさきりに

三七〇

舟をしと思

三七〇

さみませい

三七〇

367 みつのえのうらしまのこかつり舟も

三七〇

おなしうらに

かちをん

375 しらなみのあとなきかたに行舟も 風そたよりのし

るへ成ける

二六六

376 しはせこくかたかけを舟なかるとも いたくなわひ

そちとりゆかん

二六六

377 ひとみにはあまのつりふねをきに出て つれもなき

さにこきもせなん

二六六

378 みさこゐるすにをる舟の夕しほを まつらんより

われこそまされ

二六六

379 夕されはかちのをときこゆあまを舟 をきつもかり

にふなてすらしも

二六六

つり

380 いせのうみのあまのつりなはうちへて こひしき

とのみや思わたらん

二六六

381 いせのうみにつりするあまのきぬよりも 我を涙に

袖はひちぬる

二六六

382 風をいたみおきつしらなみたかゝらし あまのつり

舟まかちかへりぬ

二六六

383 いそなるゝあまのつり舟なわうちはへて くるしく

もあるかいもにあはすて

二六六

384 しかのあまの釣するを舟うけたえす 心におもひい

てゝきにけり

二六六

いかり

385 おほふねのたゆたふうみにいかりおろし いかにし

てかもわか恋やまん

二六六

386 あふみのうみをきこくふねのいかりおろし しのひ

し君かことまつ我を

二六六

387 おひ風にかせはなほりて吹ぬとも あまりいかりに

とゝまりやせん

二六六

あみ

388 いとへともなをすみのえのうらにはす あみのめし

うきこひもする哉

二六六

389 すみよしのつもりあひきの釣のおの うかひもゆか

んこひつゝあらすは

二六六

390 あま舟のへにくりつめるあみのめは つらき心のか

すにさりける

二六六

391 あふことのかたよせにするあみのめに いはけなき

まてこひかゝりぬる

二六六

なのりそ

392 あつさゆみひきつのへなるなのりその いづれのう

らのあまかからん

二六六

あか人

393 みさこゐるあらいに生るなのりその わかなつけ

せよおひはしぬとも

二六六

394 ならさきのなたかのうらのなのりその いそきなひ

かんとき待我は

二六六

も

395 もかり月いまだそなききにきよなる みきはのたつ

舟・釣・いかり・網・なのりそ・藻

のこゑさはく也

二六六

396 むらさきのなたかのうらになひきもの 心はいもに

よりにし物を

二六六

397 人しれぬこひのくるしさもかり舟 みなと入えにた

つそ鳴なる

二六六

398 いくよしもあらしわか身をなぞもかく あまのかる

もに思みたるゝ

二六六

399 たまもかるとしさをすきて夏草の こしまかさき

いはりするわれ

二六六

400 しらなみのよせつるたまもよのまにも きみをみす

てはいもねかねつも

二六六

伊勢

401 いせのうみにとしへてすみしあまなれは いづれの

もかはかつきのこさん

二六六

402 うみのそこおきをふかめて生るもの いとゝいまし

もそこひはすらしち

三七六

403 いはみかたうらみそふかきおきつなみ うちよする

もにうつもるゝみは

三七六

404 風はやみおきの玉ものくり返し なみのよるしもな

にさはきけん

三七〇

ゆけのわうし

405 夕されはしほみきなんすみのえの あかしのうら

にたまもかりてん

三七二

人まろ

406 みなそこの生る玉ものうちなひき 心をよせてこふ

る此ころ

三七三

407 おきつかせふかまくしらすあらうみの あさけの

舟に玉もかりかね

三七三

408 あらいそすなみはおそろししかすかに うみの玉

もはにくゝやはあらぬ

三七四

409 おはるけのあまやはかつくいせのうみの なみたか

きうらに生るみるめは

三七三

417 いせのうみのあさな夕なにかつくてふ みるめに人

をあくよしもなし

三七三

418 しらなみはたちさはくともこりすまの うらのみる

めはからんとと思ふ

三七四

419 しらなみのおりゝありてくる人は あまのかるて

ふめつらしきかな

三七五

420 うきめのみうきてみたるゝうらなれは かりののみ

こそあまはよるらめ

三七六

われから

421 おきつなみうちよするもにいほりして 行ふため

ぬわれからそこは

三七七

422 きみはなをうらみられけりあまのかる もにすむ虫

のなをいすれつゝ

三七八

内侍のすけきよいこ

423 あまのかるもにすむ虫のわれからと ねぞこそなか

瀬・ふるめ・われから・浦

409 けふちかもおきつ玉ものはしらなみの やへをわかう

へにみたれてをあらん

三七五

410 あめはふるかりもはつくるいつのまに あまのしほ

ひに玉もひろはん

三七六

みるめ

411 しらなみをおりかけあまのこく舟は いのちにかふ

るみるめかりにか

三七七

412 おはかたはわかたそみなどこきいてなん 人を見る

めもおきにこそかれ

三七八

そせい

413 たきつせのうつまきことにとゝむれと なをもとめ

つゝよをうきめ哉

三七九

ふかやふ

414 みつしほのなかれひるまもあひかたき みるめのう

らによるをこそまで

三七〇

415 わたつうみのそこにあれたるみるめをは み舟こき

てそあまはかるてふ

三七二

めよをはうらみし

う ら

三七六

424 わかのうらにわかめかりはすわれをみて おきこく

舟の過かてにする

三七〇

425 君なくてあしかりけりとおもふには いとゝなには

のうらそ住うき

三七三

426 みくま野のうらの松原みかくれて ねはひとつにや

おひそはるらん

三七三

427 風ふけはいくたのうらのいくたひか あるゝ心をわ

れにみすらん

三七三

つらゆき

428 おふのうらに生る玉ものかりせめに あまとそわれ

は成ぬへらなる

三七四

429 あはてのみおもへはくるしありそうみの うらみや

せましかひはなくとも

三七五

いせ

430 たかしまのあとのみつうみこきすきて しほみつう

一四五

うらにいそきこくらん

三七九

431 きてみればなこのうらまによるかひの ひろひもあ
へす君そこひしき 三七七

こまち

432 あまのすむうらくく舟のかちをなみ 世をうみわた
る我そかなしき 三七六

433 いなひのはゆきすきぬらしあまつたひ ひかせのう
らにあまつたひみゆ 三七五

434 しはかまのうらとはなしにきみこふる けふりたえ
すもなりにける哉 三七四

435 いかてわれ心をたにもやりてしか とをくなるみの
うらみかてらに 三七三

伊勢

436 みくまのうらよりをちにこく舟の 我をはよそに
へたてつる哉 三七二

437 もしはやくあまのたくひのもえさらは ふけぬのう

らをけふみつるかな

三七三

438 わかこひはしる人あらはたこのうらに たつらん
みのかすをかそへよ 三七四

中納言かねすけ

439 夕つくよおはつかなきをたまくしけ ふたみのうら
はあけてこそみめ 三七五

440 あしきたの野さきのうらにふなてして 三嶋にゆか
んなみたつなゆめ 三七六

人丸イ本

441 おふのうらにふなのりすらんをとめこか たまもの
すそにしほみつらんか 三七七

442 わかこふるいもにあひさすたまのうらに ころもか
たしきひとりかもねん 三七八

かひ

443 いせのうみにあまのとりてふわすれかひ わすれに
けらし君もきまさす 三七九

つらゆき

444 やするなみうちもよせなん我こふる 人わすれかひ
おりてひろはん 三七〇

さかのうへのらう女

445 わかせをこふれはくるしいとまあらは ひろひに
ゆかんこひわすれかひ 三七一

446 いせのうみのなきさによるうつせかひ むなした
のみによせつくしつゝ 三七二

人まろ

447 いとまあらはひろひてゆかんすみよしの きしにあ
りてふこひわすれかひ 三七三

みつね

448 ありそやみのうらめしくこそおもはゆれ かたかひ
をのみ人のひろへは 三七四

449 すみよしのはまによるてふうつせかひ
もてわかこひんやも 三七五

450 きくの秋のはまのわすれかひ 我はわすれす

浦・貝・なきさ・鳥

としはふれとも

三七六

なきさ

451 しらなみのたちかへさるゝ心かな いまはなきさに
よせんともせず 三七七

452 われのみやあたなはたつといそに出て なきさをみ
れはなみも立けり 三七八

453 あふことのなきさにみをしなしつれば
たにぬれぬ日そなき 三七九

しま

454 くさかけのあら井かさきのかさしまを みつゝや君
かみさかこゆらん 三八〇

おほえのあさつな

455 まれなれとあたなはたちぬたはれしま よるしらな
みをぬれきぬにきて 三八一

456 わかるれと別とおもはすいてはなる つるかのしま
のたえしと思へは 三八二

思ひへたつる

三七九

さ き

487 みさきまひあらはれそによするいはへなみ たちて

もるても君をしそ思へ

三七九

488 おもひつゝくれときかねつみをかさき まかなのう

らをまたかへるみつ

三七九

489 いもかため玉ひろひにときのくにの 行みのさきに

此日くらしつ

一七九四

490 なみのたつきよみかさきにゐる千鳥 たれみよとて

かあとのさやけき

三七九

い そ

491 こゆるきのいそ立ならしいそなつむ めさしぬらす

なおきにおれなみ

三七九

としゆき

492 たまたれのこかめはいつらこゆるきの いそのなみ

わけおきにに出にけり

三七九

るともにくからなくに

二六〇三

499 たてはたつぬれはまたゐるふく風に なみとは思ふ

とちにやあるらん

二六〇四

500 まちつけてもろ友にこそかへるもの なみよりさき

に人のたつらん

二六〇五

二首つらゆきイ

501 すみよしのきしのまつねを打さらし きよするなみ

のをとのきよけき

二六〇六

502 いかにしてやむへき物そきみを思 心ありそによす

るしらなみ

二六〇七

もとかた

503 たちかへりあはれと思ふよそにても 君に心をお

きつしらなみ

二六〇八

ふむやのあさやす

504 くさも木もいろかはれともわたつうみの なみのは

なこそ秋なかりけれ

二六〇九

伊勢

はまゆふ・露・波・みをつくし・詞

一五〇

つらゆき

493 風によるなみのいそには鶯の はるもえしらぬはな

のみそさく

三七九

たゝみね

494 きみをおもふ心は人にこゆるきの いその玉もや今

はからまし

三七九

な み

495 大うみにたつらんなみはいまもあらん 君こふらく

はやむときもなし

二六〇〇

つらゆき

496 うちよするうらなみみれはわかこひの つきぬかす

こそまつしられけれ

二六〇一

人まろ

497 すみよしのきしにいつむかおきつえに よする白波

みつゝしのはん

二六〇二

498 あられふるとをつおほうらによるなみの たとひよ

505 すみのえのみにちかゝらはうちよする なみのかす

をちよむへき物を

二六〇三

506 すみよしのきしにむかへるあはちしま あはれと君

をいはぬ日そなき

二六〇四

みをつくし

507 みをつくし心つくして思にも このまんことなゆめ

にしみゆる

二六〇五

508 わひぬれはいまはたをなしにはなる みをつくし

てもあはんとと思ふ

二六〇六

もとよしのみこ

509 きみこふる涙のところにみちぬれは みをつくしとぞ

いまはなりぬる

二六〇七

510 かはなみちうしほもかゝるみをつくし よする方な

きこひもするかな

二六〇八

か た

一五一

511 なにはかたしほひにたちてみわたせは あはちの嶋
にたつかけるみゆ 三六六

たなひのせた人 たちまの命婦イ

512 なにはかたしほひに出てたまもかる あまをとめこ
はなかなつけさね 三六七

つらゆき

513 いっしかといふせかりつるなにはかた あしこきわ
けてみふねきにけり 三六八

514 夏そひくうなかみかたのおきつすに ふねはとゝめ
よさよふけにけり 三六九

みなと

515 みなと風いたくふくらしなこのえに つまよひかは
したつさわくみゆ 三八〇

つらゆき

516 入月のなかるゝみれはあまの川 いづるみなとはう
みにさりける 三八二

そせい 祝本伊勢

古今和歌六帖 第四

恋

恋 517 もみちはのなかれてとまるみなとはは くれなるふ
かきなみそたちける 三八三

祝

いはひ

わかな つゑ かさし

別

わかれ

ぬさ たむけ たひ

かなしひ

なかうた こなか哥 ふるきなか哥

せとうか

517 もみちはのなかれてとまるみなとはは くれなるふ
かきなみそたちける 三八三

とまり

いはらの左大臣イ

518 おきつなみへなみたつともわかせこか みふねのと
まりになみたゝめやは 三八三

519 おはは山かすみたなひく風ふきて わか舟とめんと
まりしらすも 三八四

本云 京極入道中納言 嘉禄三年七月日以戸部御本書写了

校合又了

源朝臣在判

寛喜二年十二月十九日以入道右大弁本

書写校了、件本家長朝臣本云々

此内四百八十三首

一校了

こ ひ

1 わかこひはゆくゑちしうすはてもなし あふをかき
りと思ふはかりそ 三八五

2 わかこひはむなしきそらにみちぬらし おちひやれ
ともゆくかたもなし 三八六

3 いさやまたこひてふこともしらなくに こやそなる
らむいこそねられね 三八七

4 わかこひはひとしりねとやとよめとや こよむらん
とやしらはしれとや 三八八

5 こひしとはいはしと思ふにきのふけふ こゝろとは
くもなりぬへき哉 三八九

6 身をもかつおもふものからこひといへは もゆるな
かにもいるこゝろかな 三九〇